

# 児童の俳句 小謡に

## 尾道・長江小

### 黛まどかさん選出句 大島家アレンジ

総合的な学習の授業に日本の伝統文化を探り入れている尾道市立長江小学校（豊田博子校長、134人）の5、6年生50人が28日、尾道の四季を詠んだ俳句をもとにした小謡を同市東御所町のしまなみ交流館で披露する。同市教委が今年度初めて実施した小学生俳句コンクールの選考で俳人の黛まどかさんが選んだ入選作に、能の喜多流大島家の能楽師大島文恵さんが節をつけた。児童らは大島さんの妹の文恵さんから約3か月間、指導を受けており、「俳句と能という日本文化の共演を楽しんでほしい」と意気込んでいる。



28日の本番に向けて小謡を練習する5、6年生（尾道市立長江小学校で）

小謡は謡曲などの短い一節を囃子を伴わずに歌うもので、祝い事の席などで披露された。同小では2003年度から総合的な学習で文恵さんが能の授業を担当している。万緑の句が採用された6年の益崎友子さん（12）は「千光寺山から眺めた風景をみんなに感じてもらえたらうれしい」と喜び、豊田校長も「児童は能の学習を通じて凛とした心を学び、態度や言葉遣いに表れてきている」と話した。

大島さん姉妹が市教委主催の市民大学講座で28日に黛さんと対談することになり、市教委が依頼。黛さんが選んだ同コンクール入賞作品11点の中から大島さんが7句を用い、「青空に風に切り込み春の蝶、風に切り込み春の蝶、万緑や眼下にひろがる瀬戸の瀬戸の風」と繰り返しを入れ、約5分の小謡に仕上げた。

児童たちは26日午前8時30分から、同小体育館で仕上げの練習を行い、扇を手に背筋を伸ばして

## あす50人披露

市民大学講座は午後1時30分開演。同小児童の小謡のほか、衣恵さんによる能楽「高砂」の上演や日本の伝統文化をテーマにした大島さん姉妹と黛さんの対談などがある。入場無料。問い合わせは市教委生涯学習課（0848・20・7444）。